

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

夏休みのスタートに「森と水の学習会」を開催

**【広島北部森林管理署】**7月23日(木)

広島北部森林管理署とアサヒビール「アサヒの森環境保全事務所」(松岡洋一郎所長)、森林総合研究所 広島水源林整備事務所(増子政喜所長)は、甲野村山森林共同施業団地内のアサヒの森(庄原市比和町)において、

庄原市立比和小学校5・6年生児童19名を対象に、今年で7年目となる「森と水の学習会」を開催しました。

今年度は新たに広島水源林整備事務所も加わって3者の共催による学習会となりました。

当日は梅雨明け直後にもかかわらず、あいにくの雨により、アサヒの森にある「フォレストハウス(小屋)」で開会し、主な行事を実施しました。

最初に森林ボランティア団体「びほく・森のサポーターズ」による紙芝居「雨の子レイン坊やの冒険」や、広島水源林事務所から「森林のはたらきとセンターの仕事」の説明を行い、森林の手入れや林業の役割などについて学びました。

その後、アサヒのスタッフによる「水の浄化実験」を行い、濁水が土によって浄化され出てくる様子などを間近で見て、児童からは「飲んでみたい」との声も聞かれるほど、きれいになった水が流れ落ちてくる様子を観察しました。

また、「自然観察」は小雨の中カッパを着用しての実施となりましたが、林道沿いの植物を中心に、クロモジ



やクサギなど独特の香りがあるものはおいを嗅いだり、ミツマタやハナイカダなどはその様子をじっくりと観察しながら木の特徴を感じとっていました。

午後からは、「比和の農林業」とのテーマで、地元の方から、

かつて山村でよく見られた農具「背負子」が紹介されました。児童たちは、「背負ってみたい!」と挑戦するも、薪や生木を背負うとふらついて思うように歩けず、人力による作業の大変さや、かつて機械がない時代には便利な道具であったことを実感していました。

引き続き実施した丸太切りでは、「のこぎり」を使ってヒノキ間伐木の輪切りを行い、一人で二度三度競って挑戦していました。

最後の木工教室では、当署職員の指導のもと、木の輪切りを使ったクラフト作りに挑戦し、児童たちは自由な発想で様々な作品を作り上げていました。

また、丸太切りで切り落としたヒノキの輪切りは、いつの間にかクマやフクロウなどのいろんな動物の顔に変わっていました。

閉会にあたり先生から「森は近くにあるけど、機会がないと入り込んでいろんな体験ができない。今日一日、森や水のことを五感で感じながら体験でき、夏休みの良いスタートとなった。」との、お礼の言葉をいただきました。

ニュース

中学生が職場体験学習にきました

【滋賀森林管理署】 6月29日（月）から7月3日（金）までの5日間、職場体験学習として大津市立^{たなかみ}田上中学校の2年生3名を受け入れました。この一週間はあいにくの梅雨空となり、少し肌寒い日々が続きましたが、生徒達は一生懸命林内での作業体験を行っていました。

29日（月）の午前中は、滋賀森林管理署の概要説明、安全などの注意事項等の説明を緊張した面持ちで聞いていました。

午後からは、栗東市にあるレクリエーションの^{こんぜやま}森である金勝山国有林において、林野巡視や境界標の確認等の体験を行いました。



遊歩道を歩きながら、国有林の境界を確認し、境界標に傾斜などの異常がないか、また、遊歩道沿いに枯れている立木や、倒れそうな立木がないかなどの確認も併せて行いました。初日ということで、通常の学校生活と違う慣れない作業や装備に苦労していました。

6月30日の午前中は六ヶ山^{ろっかさん}国有林で、間伐作業を体験しました。ヒノキを伐倒しましたが、掛かり木となったため、総括森林整備官の指導の下、3人で力を合わせ

てロープで引っ張り安全にかかり木の処理を行いました。不慣れな作業の連続で体力を消耗したと思いますが、掛かり木の処理が終わったとき、3人の表情は安堵とやり遂げた後の充実した面持ちでした。



午後は一丈野^{いちじょうや}国有林に移動し、近江湖南アルプス自然休養林内の遊歩道の草刈りを行い、利用者が気持ちよく歩けるようにしました。普段、何気なく歩いている遊歩道が、このようにたくさんの人の手によって、きれいに整備されていることを改めて知ることができたと感慨深げでした。



7月1日は、朝から雨が降り続いたことから、森林環境教育の一環として、水源の森のジオラマ作りを体験しました。リアルな森になるよう各人で工夫しながら一生懸命に取り組み完成させました。作成する過程では、じっくり考えて作成する者、また、一気に完成させる者などそれぞれの特徴がみられたジオラマ作りでした。



午後からは、大津市内の治山工事現場へ行って、平成26年度に完成した谷止工を見学しました。現場では、山地災害の恐ろしさと治山工事が

なぜ必要なのかを学習しました。

7月2日は朝から近江八幡市ある伊崎^{いさき}国有林に出発し、歩道入口で国有林及びカワウの被害の状況について説明を行いました。カワウの影響で枯損している箇所や営巣箇所を双眼鏡等で遠望したところ、巣は確認出来ましたが、カワウは確認出来ませんでした。



午後からは、奥島^{おくしまやま}山国有林で輪尺、測幹、バーテックスによる収穫調査の調査方法の説明をうけ、実際に現地の立木を測りました。

7月3日は、滋賀県甲賀市にある甲賀林材株式会社の木材市場で木材の市売りを見学しました。樹種によって材質や年輪幅の違いがあることや、腐りや曲がりなどの欠点材の売値に影響することなどを学びました。生徒



たちが特に興味を持った材はメタセコイアで、年輪幅が他の材に比べてかなり広いことを発見し、メタセコイアの成長の早さに驚いていました。

午後からは同市にある^{さんこうやま}三郷山国有林で昨年度実施した生産事業箇所の見学を行い、間伐前後の森林の違いなどを見比べました。その後、収穫調査体験では、巻尺を使用し標準地を設け、ヒノキの樹高と胸高直径を計測し、ha当たりの材積を算出し、最終日の体験を終えました。

生徒からは、実際に作業を体験し、森林を守っていくためには、こんなにも苦労が必要だということが分かった。いろいろな体験をしたが、ほとんどが疲れる作業であったが、貴重な体験をしたという声が聞かれました。

生徒3名は、梅雨の時期の天候の不安定な中での職場体験でしたが、体力的に非常にきつと感じる作業が多く、その中で、3人で力を合わせながら一つ一つの作業を真面目に取り組んだことは、得がたい体験をしたと思います。

今後は、今回の体験で得た知識・経験をこれからの中学校生活に役立てていただきたいと思います。

森と水の学習会 —アサヒの森・俵原山国有林—

【広島北部森林管理署】 6月25日（木）広島北部森林管理署とアサヒビール「アサヒの森環境保全事務所」（松岡洋一郎所長）、森林総合研究所 広島水源林整備事務所（増子政喜所長）は、庄原市高野町の「アサヒの森及び俵原山国有林」で「森と水の学習会」を、庄原市立高野小学校5・6年生児童29名を対象に開催しました。

この学習会は、「甲野村山地域美しい森林づくり推進協定」（森林共同施業団地）に基づいて毎年取り組んでいる行事の一つで、今年度は新たに広島水源林整備事務所も加わって3者が連携し共催した学習会となりました。

梅雨真っ直中のこの時期、心配された前日までの雨もあがり、「アサヒの森」で開会し、午前中の行事を行いました。



最初に森林ボランティア団体「びほく・森のサポーターズ」の皆さんによる紙芝居と森林クイズで「森林の働き」について楽しく学んだ後、アサヒのスタッフによる「水の浄化実験」を行い、濁水が土によって浄化されきれいな水となって出てくる様子などを間近で観察し

ました。

また、「枝打ちロボット」による枝打ちの実演では、幹の周りをクルクルと回りながら枝を切り落として登って

いく機械に児童達は驚いた様子で、目をこらしてじっと見つめていました。引き続いての「丸太切り」体験では、



ロボットみたいに思うように早く切れないながらも、ヒノキの丸太を最後まで一生懸命切り落としていました。

午後からは、隣接する俵原山国有林へ

場所を移し、学年ごとに2班に分かれ、森林管理署職員の解説のもと森林散策を行いました。

散策では、ハクウンボクの葉のように「ふわふわ」したものや、ミズメ、ゴマギの葉などの樹種特有の香りがあるものは、積極的に手に取って体験するなど、五感を使って親しみながら木の特徴を感じとっていました。

また、散策の途中で、小さな谷へ湧き出る水の様子に足を止めて冷たさを実感し、山から流れ出た水が下流で集まって私たちの暮らしに利用されていることを、実体験を通じて学びました。

散策の最後には「水の鼓動を聴こう」とのテーマで、

ビニールパイプを使って溪流の水音を魚になった気分ですーっと聴き、思った以上にいろいろな音が聞こえてくることに皆が驚いた様子でした。



最後に児童から「パイプで聴く水の音や、山の木の種類が多いことに驚いた」「枝打ちロボットが木登りして枝を切り落とす様子に驚いた」「山の水は思った以上に冷たかった」などの感想がよせられました。

センター発行のテキスト送付から 講習会開催へ発展

【箕面森林ふれあい推進センター】

近畿中国森林管理局箕面ふれあい推進センターでは、森林環境教育に取り組む教員や指導者等が、無理なく実践できるように編纂した指導者用テキストを発行しています。

「森林環境教育手引書（小学校編）」は、学習指導要領での位置づけや単元を明確にした授業案で構成し、森林・林業に関するいろいろな図表・写真・動画をDVDに収めて付録しています。また「森林環境教育推奨事例集」は、教室や校庭での学習から国有林の森林をフィールドとした学習まで網羅した34事例を収録しています。

これら手引書及び事例集について、公益社団法人島根県緑化推進委員会から、島根県内のみどりの少年団活動指導者の参考資料としたいとの問合せをいただき、送付したところ、手引書等の中心的な執筆者である京都教育大学の山下宏文教授を講師に招いての指導者講習会が、出雲市で開催されました。

島根県緑化推進委員会小塚常務理事より講習会の様子を報告して頂きましたので、以下のとおり紹介します。

島根県緑の少年団連盟は、平成27年6月19日出雲市で総会を開き、併せて指導者講習会を行った。

講習会では、近畿中国森林管理局箕面ふれあい推進センター発行の「森林環境教育手引書（小学校編）」と「同推奨事例集」を執筆された京都教育大学の山下宏文教授の「森林環境教育の重要性と進め方」と題した講演会を実施した。

講演には、緑の少年団連盟関係者（小中学校教員）の外に、森林ボランティアやNPO関係者、県・市の技術者など約40名が聴講した。

緑の少年団活動をしっかり根付かせるには、普段から教育課程に密接に関わった進め方が重要であること。



ESD教育（持続可能な開発のための教育）に森林を活用した手法が適していること。「関心喚起」から「理解の深化」、さらには「具体的な行動」に結びつける過程を重視すること。

21世紀に求められる子ども達の能力（単なる知識や技能だけでなく、参加する能動的態度、複雑な課題に自発的行動が出来ることなど）は、「森林環境教育」が求めるゴールと重なる部分が多い。といった意見は今後の活動に大いに勇気をいただいた。

「森林環境教育手引書（小学校編）」は現場教育者に具体的な動きを作り出せる貴重な指南書であり、県内の全小学校に提供する計画です。

ふれあいの森で森林教室

【島根森林管理署^{おおしど}】 7月25日（土）、社会貢献の森協定箇所である大志戸国有林の連合島根「ふれあいの森」において森林教室を開催しました。

当日は、夏らしい晴天に恵まれ、参加者（子供30名、大人28名）が開催地に到着すると、木々の間から降り注ぐ日差しに、吹き出る汗をタオルでぬぐい、川にすぐにも入りたそうな子ども達の姿が多く見受けられました。

午前中の自然観察会では、林道を歩きながら、サンショウやドクダミの葉のニオイを嗅いで驚いたり、森林の中の川の音

や鳥の鳴き声などに耳をすましてみたりと五感をフル回転させ自然に触れました。

途中、形や大きさ、色等、種類が異なる葉っぱを3枚選んで行った「葉っぱじゃんけん」では、「はっぱっぱ」のかけ声と共に自分の勝負葉っぱを勢いよく出して「勝った！負けた！」と歓声に包まれました。

スギ人工林の前では、「八岐大蛇は、斐伊川を例えたものだといわれており、その背中にはスギやヒノキが生



えていたと日本書紀に記され、スギは日本人にとって馴染みのある木であり、代表的な人工林」という話をした後、スギの木の太さ当てクイズを行いました。

また、治山ダム設置箇所^{すさのおのみこと}に到着すると、「汨濫を繰^{くしなだひめ}返し恐れられた斐伊川の治水を須佐能袁命が水田の神である奇稻田姫^{くしなだひめ}を守るために八岐大蛇を退治したお話に例えられている」という古事記や日本書紀に書かれている話を盛り込みながら治山事業についても説明しました。

自然観察から帰ってくるとすぐに子供たちが水着に着替え川に入り、「水が冷たくて気持ちいい」「5匹も捕まえたよ！」等と歓声をあげながら約100匹のニジマスとヤマメのつかみ取りを行いました。

石の隙間に逃げ込まれたり、せっかく捕まえたと思ったら手から滑り落ちたりと苦戦しましたが、次第にコツを覚えた子供たちが見事捕獲し、大人が竹串に刺し炭火で焼いた魚を参加者みんなで食べました。

午後からは子どもから大人までを対象に木への親しみや森林の働きについてのパワーポイントを使った森林教室と紙芝居を行いました。途中で自然観察会でみつけた昆虫の名前をあげたり、木で出来た物は何かを答えたりしながら、楽しみながら森林の役割や大切さを学びました。

その後の木工教室では、「木育」を意識し、木の温かみや利用の意義を体験出来るよう、スギ板を糸鋸で切り抜いて作る鍋敷きや、ナツツバキの輪切のキーホルダー、サクラの小枝のもっくん、えんぴつくん作りに取り組みました。特に鍋敷き作りは、子供達が板に書いた絵の輪郭を糸鋸を真剣に操作して切り抜くお父さん、お母さんを尊敬のまなざしで見守る子供達の姿が印象的でした。

親子連携プレーで完成したそれぞれの個性豊かな作品を手満足した様子でした。

家族単位での参加がほとんどを占めている今回の森林教室では、夏休みの最初の家族との思い出となり、家庭内でも自然の中での体験等を思い出して森林、林業に興味をもってもらえればとの願いをこめて閉会しました。

業務説明会を実施

【総務企画部 総務課】 7月15日（水）、林野庁の業務全般の紹介や、当森林管理局が管理する国有林のフー

ルドを活用した取組を、実際に現場で見ていただくことを目的に、京都大阪森林管理事務所管内の銀閣寺山国有林にて業務説明会を開催しました。

当日は、平成27年度国家公務員採用一般職（大卒程度）試験の受験者のうち、林野庁への入庁を検討されている方を対象に募集したところ、京都近郊以外の大学からも参加申込があり、総勢17名の参加がありました。

業務説明会では、最初に、林野庁、国有林及び近畿中国森林管理局の業務内容の説明、銀閣寺山国有林の概要について説明した後、実際に現場を見て頂きました。

現場では、銀閣寺山国有林は、一般の入込み者の多いことから、治山ダムについても景観に配慮した工法

で設置していること、地元関係者と協力したマツ林再生

の取組、試験研究機関等との共同研究の取組について、実際に現地を見ていただきながら、京都大阪森林管理事務所長から取組状況を説明しました。

当日は、台風の接近による降雨も心配されましたが天候に恵まれ、途中急な山道もありましたが、皆さん元気に現地を興味深く見学されていました。

現地を見た後、学生の皆さんからは、国有林の取組がよく理解できた、採用されてから自分が行う仕事についてイメージできた等の感想や、これから採用までのスケジュール、採用後の処遇等について活発な質問があり、充実した1日を過ごしていただけたようでした。

今回参加いただきました皆様には、是非、林野庁へ入庁いただければと期待しています。

「森林の調査隊！！フォトコンテスト」 締切迫る！！

＊ 締切 8月31日（月）

＊ 作品のテーマ

もり
森林で見つけた動植物（昆虫・動物・植物）
もり
森林での体験・活動（里山整備、森林環境教育など）
（上記どちらかのテーマに沿ったデジタル組写真2枚1組か3枚1組とコメント200～400字程度）

＊ 応募対象

個人又はグループ
年齢は問いません。必ず、本人が撮影した未発表作品に限ります。
2作品まで、応募可能です。

＊ 応募先・問い合わせ先

箕面森林ふれあい推進センター
TEL：06-6881-2013 FAX：06-6881-2055
HP：http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/information/morinochousatai-top.html

平成27年度森林・林業交流研究発表会の申込みを受付中です。

＊ 申込み期限 9月4日（金）

＊ 参加資格

当局管内の府県及び市町村の職員、森林・林業関係団体等の職員、教育機関の生徒・教職員等。
当局職員や上記と共同で研究する者

＊ 申込み・問い合わせ先

近畿中国森林管理局 技術普及課
TEL：050-3160-6754 FAX：06-6881-2055
HP：http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/kenkyu_happyou.html

平成27年度森林環境教育（森林ESD）活動報告発表団体を募集しています。

＊ 募集締め切り 9月30日（水）

＊ 応募資格

当局管内の国有林・民有林等で、森林を活用した森林環境教育を実践している学校関係や森林ボランティア団体、企業、公共機関

＊ 問い合わせ先

箕面森林ふれあい推進センター
TEL：06-6881-2013 FAX：06-6881-2055
HP：http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/information/h27-esd.html

もりの 森林のギャラリー(局庁舎1階)

【8月のテーマ：イベント】

8/27～8/28 森林（もり）のつどい2015

【ピノキオ絵本で遊ぼう会】

【9月のテーマ：森林の絵画展】

9/1～9/11 第5回絵画グループ「クリエイイト展」

【絵画グループ「クリエイイト」】

9/14～9/25 スケッチ教室グループ展示

【みのむしプロ】

9/28～10/1 第7回彩21 絵画展

【彩21】

花草木

今月の花草木は「ヒマワリ」です。

ヒマワリは、北アメリカ原産地の、キク科ヒマワリ属の一年草で、和名で「向日葵（ヒマワリ）」、別名を「日輪草（ニチリンソウ）」といいます。

ヒマワリは、花が太陽の方向を追うように動くことに由来し、英語では「太陽の花（Sunflower）」と呼ばれています。

花言葉は、「私はあなただけを見つめる」「愛慕」「崇拜」で、花言葉の「私はあなただけを見つめる」は、ヒマワリが太陽の方向を追うように動く性質にちなんでいます。

西洋の花言葉には「偽りの富（false riches）」もありますが、これはスペイン人がインカ帝国（ペルー）において、太陽の神殿に仕えた巫女のヒマワリを形どった純金の装身具などを奪い取ったことに由来するともいわれています。

ヒマワリを国花としているのは、ペルー、ロシアで、ロシアはヒマワリの生産量世界一となっています。

シリーズ 保護林 第25回

近畿中国森林管理局の保護林

天王山特定動物生息地保護林 [高梁川下流森林計画区]



林内の様子



保護林内で発光するヒメボタル

天王山特定動物生息地保護林は、岡山県新見市に位置しています。当保護林は、地域的固有種として分布しているヒメボタルの生息地の保護を目的として設定しています。

保護林の面積は、8.75ha で水源涵かん養保安林に指定されています。保護林の植生は、スギ、ヒノキ、アカマツなどが混生する針葉樹の複層林で、ミヤコザサやヤブムラサキ、コアジサイ、サワフタギなどの低木類が見られます。

また、オサムシ類やシデムシ類といった多くの昆虫類が生息しており、初夏の夕暮れは発光するヒメボタルが見られます。

【天王山特定動物生息地保護林へのアクセス】

- ◎車・・・国道 50 号線を経由、林道天王山線をのぼり、保護林にアクセスします。
- ◎歩・・・登山道が整備されています。入林する際は、登山道から外れないよう注意してください。

【天王山特定動物生息地保護林に生息・生育する動植物】

- ◎植物：ヒノキ、スギ、アカマツ、ヤマザクラ、コナラ、アベマキ、クリ、ウリカエデ、アオハダ、コアジサイ、アセビ、サワフタギ、ヤブムラサキ、ミヤコザサ、シシガシラ、タガネソウなど
- ◎動物：ヒメボタル、アキオサムシ、ヨツボシモンシデムシ、センチコガネ、ニシムネアカオアリなど

【保護対象種】



ヒメボタル
Luciola parvula



天王山特定動物生息地保護林

【保護林及び国有林内での注意事項】

- ★国有林内の動植物の捕獲、採集はできません。
- ★国有林内では火気厳禁です。林内では禁煙にご協力ください。
- ★自然環境の保護と安全な利用のために、歩道等を外れないようにお願いします。
- ★林道は幅が狭い未舗装の所がほとんどです。落石の危険性もあります。注意して通行してください。

第16回天満音楽祭同日開催
おおさか山の日関連イベント
水都大阪2015連携プログラム

大川端で森林を体感
森林から学ぼう
地球の未来



山の日制定記念 水都おおさか

森林の市

入場
無料

2015

平成 10月4日(日)10時~16時 雨天決行 (荒天中止)
27年

会場: 近畿中国森林管理局・毛馬桜之宮公園

JR環状線「桜ノ宮駅」
西口から徒歩5分



初代「ミス日本 みどりの女神」来場



苗木プレゼント (数量限定、スタンプラリー制)



森の食材を活かしたフードコーナー



木と遊ぶキッズコーナー

主催: 水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会 協賛: 一般財団法人日本森林林業振興会大阪支部 / 一般社団法人全国樹料協会 後援: 国土交通省近畿地方整備局 / 近畿地方環境事務所 / 近畿農政局 / 三重県 / 滋賀県 / 京都府 / 奈良県 / 和歌山県 / 大阪府 / 大阪府教育委員会 / 滋賀県森林組合連合会 / 京都府森林組合連合会 / 奈良県森林組合連合会 / 和歌山県森林組合連合会 / 滋賀県木材協会 / 一般社団法人京都府木材組合連合会 / 奈良県木材協同組合連合会 / 兵庫県木材協同組合連合会 / 和歌山県木材協同組合連合会 / 内閣府公益社団法人大阪府親友会 / 公益社団法人国土緑化推進機構 / 公益財団法人関西・大阪21世紀協会 / 公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 / 帝国ホテル 大阪 / 産経新聞大阪本社 / 森林環境の保全・整備連絡調整会議